

2. 事業の概要と成果

(1)上位目標	・上位目標:アグボビル県内の 6 村において、青年層が習得した職業訓練技術を生計に活かすことで農村の社会経済基盤を安定させ貧困削減する。 ・達成度合い: 既に養鶏、野菜栽培、アグロフォレストリーの事業がスタートし、自給自足から販売を目指した指導がなされている。農業が産業となることで、村の青年の失業率や食糧問題が解決されると同時に貧困も削減され、社会経済基盤が安定する。
(2)事業内容	事業実施場所:6 村 (Badoukro 村、Bonikro 村、Bokaho 村、Aboude Boa Vincent 村、Ekissiho 村、Aboude Dadie (Anouma)) 【1.モデルになる農園と鶏舎の建設、資機材の導入】(各村で実施、計 6 村) 1-a:モデルになる農園の開墾と資機材の導入(各村 1 面、6 村計 6 面) 6 村にて農園、農機具、オクラ、唐辛子の種子が導入され、モデル農園となる路地栽培が行われている(4 月 12 日開始、6 村で実施)。ビニールハウスは 8 月中に建設が開始される。日本側が鶏舎建設資機材と飼育道具を支援し、村人が整地、建設労働費を負担するという相互協力事業となる。 1-b:モデルになる鶏舎の建設と資機材の導入(各村 1 棟、6 村計 6 棟) 各村にて鶏舎建設が開始された。現在 5 村では既に鶏舎が完成し、雛鳥(食肉鶏各村 1000 羽)が配布された。養鶏専門家、獣医の監督により現在のところヒナは順調に成長している(4 月 28 日建設開始。現在 5 棟完成)。 【2. 技術研修】(各村で実施)計 360 名に以下の研修を実施した。 2-a:野菜栽培研修(訓練生:各村 15 名×6 村=計 90 名) 現在まで、土壌・堆肥作り、有機農業(有機肥料、雑草の堆肥利用など)が指導された。訓練は実践を中心に行われている。また、非識字者への配慮(絵や写真を多用)、現地語による説明等裨益者へ興味関心が深まるよう試みている。(講師 Zoro Bi Youan 氏、期間は 4 月から 10 か月間、訓練生 90 名対象) 2-b:養鶏研修(訓練生:各村 15 名×6 村=計 90 名) 現在まで、鶏舎建設方法、ヒナの運搬、管理方法、病気への対処などが指導された。鶏舎建設では食害対策(ネズミや野生動物等)のため、床にコンクリートを使用。鶏舎は水飲み場に近く、監視の行き届く場所に設置した。(講師 N' Guessan Konan 氏、期間は 4 月から 10 か月間、訓練生 90 名対象) 2-c:アグロフォレストリー研修(訓練生:各村 30 名×6 村=計 180 名) 森林再生のために各村に 145 本の油ヤシと果樹や豆類の栽培方法を指導した。現在まで土地の選択、整地方法、植樹方法などアグロフォレストリーの基礎知識が指導された。(講師 Kouadio Konan 氏、期間は 4 月から 10 か月間、訓練生 30 名対象) 【3.能力開発研修】 3-a:リーダーシップ研修(各村 5 名×6 村+行政他 10 名=計 40 名) 佐藤専門家により、4 月 18 日から 21 日まで、養鶏、野菜栽培、アグロフォレストリーの各担当者と村のチーフ、行政職員が一堂に集まって合同研修をアグボビル議会の研修室で行った。内容は「村の変化」、「地域の問題解決」、「行動計画」、リーダーの役割について講義とワークショップを行った。参加人数は全体で 40 人である。研修後、佐藤と神戸は日本大使館及び JICA(4 月 22 日)、アグボビル市役所(Albert 市長、4 月 23 日)を表敬訪問し、プロジェクトへの理解と賛同を得た。また事務所改装、車両購入、銀行口座など事業開始に向けた環境整備を整えた。 3-b:コミュニティ開発研修は 9 月開催予定。

	3-c:農業研修(各村で実施、参加者:各村 50 名×6 村=計 300 名) 7 月 23 日より 7 月 31 日まで、各村の農民を対象に、現地農業専門家 GUEI MAHE FRANCK 氏(アグロビル農業局「専門家対象農業研修」受講者)による 3 日間の農業研修「農産物の生育方法及び販売手法、有機農業手法」が実施された。各村にある集会施設(学校等)に集まっての研修。非選抜型の研修で参加予定数 50 名に対し 60 名が参加した。 4.専門家対象農業研修【参加者 25 人】 6 月 19 日から 21 日まで、山本専門家(マーケティング)、磯田専門家(土壌分析)により、3 日間の日程で合同研修を開催した。農業省職員、農業技術専門学校学生、現地農業専門家、選抜した訓練生(野菜栽培担当責任者、アグロフォレストリー担当責任者等)に対して、農作物の生産性と収入向上を図るための土壌改良と販売促進の研修を実施した。9 割以上の参加者が「大変役に立った」と評価した。研修生には、農民に対し指導を行うためのテキストを配布した。
(3)達成された効果	【1.モデルとなる農園と鶏舎建設、資機材の導入】 ・成果:現在、6 村にてモデル農園(路地栽培)が行われている。また、5 村で鶏舎が完成し、養鶏が始まった。既に開始されている作物、鶏の各村における販売試算額は、オクラ 600,000cfa(約 12 万円)、鶏 2,500,000cfa(約 50 万円)、計 60 万円以上。その他、ナス、唐辛子等による収入を見込んでいる。 ・指標:各村の鶏舎・農園の年間純利益が 60 万円以上になり、各訓練生は 4 万円以上/年の収入を得る。 【2.技術研修】 ・成果:野菜栽培が 15 名/村、養鶏が 15 名/村、アグロフォレストリーが 30 名/村の参加を得て技術研修が始まり、野菜栽培、養鶏と見える成果が表れているため、新たな産業として定着する可能性が出てきた。 ・指標:養鶏や野菜栽培の訓練生 180 名の 90%以上が興味を示しており、アグロフォレストリーも整地や植樹など成果が出始めているため、森林保護への関心も高まっている。聞き取り調査と研修からのアンケートによる。 【3.能力開発研修】 ・成果:各村のリーダーシップ研修参加者 5 名は、既に養鶏、野菜、アグロフォレストリーの責任者を務め、生活改善に取り組んでいる。各村での農業研修には、概ね 50 名以上の参加者が見られ、栽培方法、有機農法への関心の高さが感じられた。 ・指標:リーダーシップ研修参加者と農業研修参加者との協働により、新しい農法が広まる期待が高まっている。 【4.専門家対象農業研修】 ・成果:アンケート調査によると、訓練生の多くが研修はよかったと答えており、土壌分析、有機肥料の関心の高まりが出てきた。現在、研修のフォローアップが行われている。自給自足型から産業基盤型へとシフト転換の可能性がある。 ・指標:研修参加者により、土壌分析の効果、堆肥作り方法などが紹介された。
(4)今後の見通し	①在コートジボワール日本大使が活動を視察予定:9 月 9 日 ②コミュニティ開発研修:9 月中旬開催予定 事業開始当初 2 か月程度の遅れがあったが、現段階で既に成果は上がっており、事業の推進は問題ないとする。